

1. 気づいたこと

- ・「差別」の具体的内容が判った。
- ・結婚、教育、就職、土地（住む場所）といった日常に関することで差別が存在する。
- ・みなさんの教えが良くわかる。
- ・法律・条例は大きな変化になる。
- ・同和問題、部落差別について知らないことがたくさんありました。
- ・LGBTQ+についても理解が深まりました。
- ・もっと安心して相談できる場が必要だと思いました。
- ・人が意識を変えていくのはなかなか大変だと感じました。
- ・前提意識の少なさを痛感しました。しかし、グループワークで学びを深めることができたのが良かったです。
- ・多様な考え方をするメンバーと一緒に作業をすることが、楽しいということがわかりました。
- ・「正しい知識」をどういう方法で伝えることで「正しく伝わる」のか。
- ・自分だけが変わっても周りもかわらなければ「変わったことに」ならない。
- ・人権とは、特定の人のみにあるのではなく、誰であっても必要なものだと今まで知らなかったこと。
- ・皆で考えると色々なアイデアが出てくる。
- ・活かすこと、聞くことの重要性を改めて感じた。
- ・いろいろな違いがあっても共通の思いがある。世代、性別 etc 多様な人たちと話して「普遍的な人権」を確認できた。
- ・私含め人権について普段考えたり話したりする機会が足りないということに気づいた。
- ・部落問題の多様さ（いろんな問題があること）と先進的な取り組み
- ・当事者であっても歴史など差別の起こる背景を知らなかったと気がついた。
- ・幅広いひとたちが今回参加されていて、私のグループ内だけでも様々な人たちがいました。普段あまり意識しながら生きていないですが、自分のおかれている問題（部落差別）を様々な立場の人と話せたことはとてもよい気づきになり、勉強になりました。もっとこういう場に参加できたらと思います。
- ・自分が気づいていなかった人に対する偏見があるのかもしれないと思った。
- ・知らないことで流して忘れさられていることが多いように思った。
- ・人権を考えるのは、もっと難しいものと思っていたが人権を考えるというのは実際には身近なことから考えればいいのだということがわかった。
- ・自分が今属しているコミュニティの中でしか考えが広がらない。

・アンコンシャスバイアス

・人はどこか見た目で判断してしまうところがあるが、こういった話し合いの場で初めて自分がどれだけ勝手な決めつけをしているのか気づかされる。

・「人権」というと、今回のテーマである「LGBTQ+」や「部落差別」をはじめとした項目にスポットが当たりがちだが、それは所詮マイノリティの中のマジョリティでしかない。声をあげられないほどのマイノリティの方々がいることに気づくことが大切。そのためには学ぶことが大切。

・今回のWSで、いろんな人権課題があるが、根本は、一緒ということに気づけた。

・コミュニケーションの大切さ。話して理解し合うことが大切と気づいた。

・どちらにも共通した原因としてロールモデルがないというのがあった。

・LGBTQ+及び部落差別について、昔に比べたいへん関心が高まり、社会の問題として捉えようとの動きが進んでいるように期待が持てた。またその一方で、これらの問題にかかわる実効性がある相談窓口の設置が必須になっていると強く感じた。

・ワークショップを通じて、人権についてのイメージが違うことについて改めて気づかされた。様々なアイデアを得ることができた。

・今回のワークショップにこれだけの多数の参加がみえ、関心の高さに驚きました。

・年齢を問わず、個々の思いは様々であり、尊重されるべき人権がこれだけ多種多様に存在する事に気づきました。

・前回とは、テーマが異なったが、グループワークで自分の考えが足りない（少ない）ことに気づいた。

・LGBTQ+も部落差別に対しても自分とは関係ないと思っている無関心の人が出て、正しい情報を知ろうとせずと与えられた情報をそのまま鵜呑みにしてしまっているということによって、少数派の人に対して差別をしまっているのかなと気づいた。

・差別といっても様々な種類があり、原因には共通するものも多くあると気がついた。

・何かを考える場、参加して考えることの大切さ、自分とは無関係と思っていることでもそれに直面し、悩み、考え、改革しようとしている人たちがいて、そこに自分も実は関わっているということをきちんととらえなくてはいけないなと思いました。

・学校教育の重要性

・教えるべきことの多さに対する人材、予算、機会の少なさ。

・共通部分が多数あった。

・人権課題には様々なものがあるが、どの課題にも共通する原因があり、根っこの部分は同じということに気付いた。

・人権に対する教育については、それを教える人の少なさ、学校教育に限って言えば、先生の教える知識が少ないことが分かった。

・仕方ないとあきらめられていることの中にも人権に関わることは、たくさんある。一人ひとりが自分を守るために人権を学んだ方がいい。

- ・世界人権宣言 29 条「権利と義務は違う」 ←無意識にやってしまうな～
- ・差別の意識はどこからきているのか “なぜ人を分けたの“
- ・歴史から学ぶことの大切さ
- ・表面的に見えることやある特定の人、一部の人の発信だけで判断しないこと（ひとりの意見として受け止める。）
- ・「差別を禁止する法律」を制定するという意見が多かった。
- ・教育の重要性を訴えること。
- ・同じベクトルを持った仲間と人権問題に向き合うことの大切さ。
- ・同和問題は、社会課題の先端に取り組んでいる。
- ・問題解決のアプローチは様々である。
- ・常識や認識は人それぞれ、考えもそれぞれ
- ・県によって教育がちがう（部落）。
- ・大阪の事例が素晴らしかった。
- ・原因というのが判っているからこそその対処の仕方が「根本を解決するため」という形だけではないことに気づかされた。
- ・「愛知県、ヤバイ…」ということ。
- ・当事者の気持ちになって「人権意識」をもう一度考えたい。また、「差別」をなくすことは、簡単にできることではなく、あらゆる面から教育、啓発などを行って、差別をなくしていく努力が必要だと認識しました。法律の整備にもぜひ取り組んでもらいたい。

2. 大切だと思ったこと

- ・「差別」に対して敏感になる。意識を高める。自分の中の常識を疑う。
- ・良心と自分をふりかえる。
- ・教育は太いやつと思う
- ・当事者の方の話を聞くことが、理解を深めて共感を育てることにとっても役に立つと思いました。
- ・国、県、市町村に対して何をなすべきかを言葉にして書くこと。皆で閲覧することが大事だと思いました。
- ・続けること。一過性ではなく続けていくこと。
- ・周りの意見を聞いて、自分の考えとの違いや共鳴できることを知る。
- ・人権とは、特定の人のみにあるのではなく、誰であっても必要なものだと今まで知らなかったこと。
- ・どこまでやれるか、孤立を恐れずに実行する勇気が必要だがあと何年生きられるか。
- ・現在もいろいろな法令があるが本当に実行させるには世論が大切。ザル法が多い政治に関心を持とう。
- ・知る努力、アンテナをはることに。発信、発言すること。
- ・小さいころから多様な人と出会って思ったことを話せるようにすること。
- ・当たり前とは何なのかなど言葉の意味を改めて考えること。
- ・伝える人を増やすこと。
- ・学び続けること。
- ・今回のように様々な人と集まって人権問題について話し合うことの大切さを感じた。とても理解が深まった。
- ・つい、自分から話してしまうことが多いので、お相手の出方やリズムなどを大切にして、他の話をよく聞きたいと思います。
- ・なぜこのような差別をするようになったのかという深掘りを自分なりに改めてした方がいいと思った。
- ・自ら学ぶ姿勢
- ・気づいたことと同じになりますが、コミュニケーションの大切さを改めて思いました。今日、初めて出会ったグループの仲間とも顔だけではどんな人？なんだろうとかたまってしまったが、話して笑い合えることができた。
- ・継続すること。4回目だものね。
- ・行政が設置する窓口では人材も予算も限られており、限界がある。また、住民によるボランティア活動では局地的になりがちである。したがって、専門職の養成はもとより、住民への正しい理解促進が必要だと思う。
- ・人権状況の実態、影響、解決について一環的に考えることが重要だということについて学

んだ。

- ・自分も大事、他人も大事。
- ・人権課題は多岐にわたっているが、課題やテーマが変わると自分の関心事が薄れ、知識が足りないと思った。身近なところに課題があることを意識し、目を向ける必要がある。
- ・いつ自分がその立場になってもおかしくない我が事として捉えて、人権・差別の問題について話し合い思考することが大切だと思います。
- ・人権が侵害されるのは、悪いことと皆思っているだろうが、気づかず自分の権利が侵害されたり、侵害してしまうことがあってはならない。知る機会、気づく機会をつくらなくてはいけない。
- ・「わたしらしく生きる」という言葉の深さを感じました。大切だけど、案外難しいことなのかもしれません。
- ・人権について、広める活動を続けること。
- ・ネットで今回の集まりのことを知り、参加した。実際に参加して、様々な思いを知れたことが良かった。
- ・まず自分には関係ないという意識は持たない。当事者意識を持つこと。
- ・差別を許す社会は最終的には自分を苦しめる。声をあげつづけることが大事。
- ・知ること、知ろうとすること、対話。
- ・自分の考えをアップデートする。
- ・当事者がいること（声を直接聞くこと）。
- ・当事者＝自分ごととして捉えること。
- ・相互に理解し合うこと。
- ・今回のようなワークショップや講座を積極的に見つけ新たな知識と学びを獲得すること。
- ・当事者の話を聞くこと+当事者ではない人が参画することが大切。
- ・知る機会をつくる必要がある。
- ・知ろうと思うことが大切。
- ・当事者ではなくとも自分事として考えることが大事。できることで行動をおこす必要がある。
- ・因果関係や事業についてなど、関連性の把握が大切だと思った。
- ・中学生のころから三重県では部落のことを学んできた。だから今ここにいる。教育は大事！！
- ・「良心」が大切だと学んだ。

3. これから実行しようと思ったこと

- ・「差別」に加担しない。「差別」を見過ごさない。
- ・あらゆる差別をなくすまで頑張ります。
- ・色々な人に会いたいです。そして話をしたいです。聞いたことを伝えたいです。
- ・知識を「目」の情報から入手するだけでなく、「手」や「声」や「耳」を使って得ることが大切だと考えたので、これから、こういった啓発事業に参加しようと考えました。
- ・自分の考えを積極的に発信、共有する。
- ・気になったことを周囲に聞いてみる。
- ・“興味を持つ”為にどうすることが効果的なのか考える。
- ・いろいろな行事に参加すること(今回のような会)。成人したらかならず選挙に行くこと。相手の立場になって想像することを日常的に行うこと。
- ・歴史に学ぶため、まず勉強→近くの人、家族に話すことから始めたい。
- ・知る努力を続けること。学びを伝えること。
- ・いろんな人権の活動にもっと参加すること。自分が普段何を考えているのかについて見直すこと。色々な人と共有。
- ・教育現場で取り上げていくこと(参加型の授業で)。
- ・いろんな人とつながれる機会に出向くこと。
- ・歴史や制度についてもっと勉強したいと思った。
- ・まだまだ無知なことが多いので(人権17の項目と言われ出てこなかったものが…)精進して勉強していこうと思いました。
- ・今日このキャラバンで学んだり、気づいたことを周りの人に話す。
- ・キャラバンに参加する→周りに伝えて広める。
- ・知識のアップデートをする(読書、映画、コミュニティを広げる)。
- ・今回のことで学んだ差別に対しても(他の差別も)人と人とのつながりを大事にコミュニケーションを大切にしていこうと思いました。知る機会をどんどん参加していきたい学びたいと思っています。
- ・人権本の責任は重い+頑張ろう
- ・相談員としてひとりひとりに寄り添える者になりたいと思う。話を聞くだけでなく、直接的な関わりを持てる相談員になりたい。
- ・人権状況の実態についての認識、その影響、解決に向けたアプローチについて論理的に考え、認識することと他者との共有化、自ら偏見について意識していくことを実行していこうと思う。
- ・様々な情報から知識を吸収しても実際にその現場に行ってみること(自分の目で)、そして自分の耳で聞くことが大事。
- ・今回は学校教育で課題解決できることも多くあったので現場で実践あるのみです。

- ・自分事として捉えて正しい情報を見極めようとする事。
- ・起きている問題の原因、社会的、文化的背景にも目を向け、解決の為になにが必要であるか、多角的な視点で考えていきたい。
- ・社会のことに関心をもって、今、起きていることに対して、アンテナを張っていたい。自分が考えを言えるようにもなっていたいと思います。
- ・個人からの発信、知っている人を増やすこと。
- ・LGBTQ+は、勉強中、子どもの人権は本買ってある。第二次世界大戦のことが書いている本は買っている。今年は本を4冊読んだ。知り合いに話した。とりあえず、勉強したことは、話せる人がいるし、とりあえず、年を越したい。来年元気にいきいきと生活していく、体調の管理を心がけていく。
- ・あらゆる人たちとコミュニティを持ちたい。
- ・知識を正しく知り、正しく伝えていきたい。
- ・声を聞くこと、共に考えること、つなげること。でもそれは支援のためではなく、仲間として。
- ・どんどん学び続けて考えをアップデートしていきたい。自分の身勝手に気付けるようになりたい。
- ・情報のインプットを多様に関心のある（ネットワーク/コミュニティ）から飛び出して情報を得てその情報を伝える。
- ・包括的差別禁止法の制定
- ・県内での条例、人権プランの制定
- ・資料で法律名が違っていました。正しくは「同和対策事業特別措置法」→訂正がないのはよくないです。事情が異なります。できたら、地元のことをよく知っている方お願いします。
- ・ゆいネット・ナゴヤの仲間を増やし、人権啓発ファシリテーター養成講座を充実させると共に、人権侵害の現場のフィールドワークを実施する。
- ・知る機会の創出
- ・情報発信
- ・家庭内でのコミュニケーション
- ・部落についてもっと学びたい。
- ・見えない差別について、アンテナを高くしたい。
- ・根本解決を目標と考えるが、部落差別は長い歴史の中で築かれていった人間の価値観なので、対処療法で長い年月をかけながら根本解決を図る方法を考えてい。
- ・今日の資料をまた職員室で回覧すること。
- ・世界人権宣言の資料を全生徒に配ること。
- ・何ができるかをもう一度考え直す。
- ・関係者との対話を行っていく。